

美術学科

配当 年次	必須 区分	科目名	授業 形態	概要	単位数		
					通信	面接	計
1 年次	必須	絵画表現研究 (マテリアル研究)	演習	人間は、身近にある自然素材の持てる力を極限まで引き出し、道具を作り技術を発見・発明し文明を作り上げてきた。洋画・日本画を問わず、絵画材料もまた人間が発見し創造した。美的創造を鼓舞するイマジネーションを、絵画材料や道具や技術から引き出す。		2	2
		平面基礎	実習	用具・かたち・つくる・見る・かんじる・こころの6つの分野から学習し、東洋・西洋の視点から面接授業を含め、「創造活動」の意味を探究する。	4	2	6
		デッサン研究	演習	眼と手と道具(鉛筆や木炭など)の連動によって対象をとらえるという行為をデッサンという。クロッキーによる全体的な人体把握と直感的な画面の構成の把握。動かない石膏像と揺れる人体、精緻にあるいは瞬間とも言える時間の中で対象を把握する。	2	2	4
		表現と方法	講義	様々な分野で活動する担当教員による、連続した講義の授業。活動の根拠や動機、手法の魅力や工夫、今後の展開やビジョン等を、教員それぞれの視点やテーマで講説する。		2	2
	選択	デッサン	実習	鉛筆を用いた対象物の細密な描写、ボールペンを用いた人物スケッチにより、見ること・描くことの意味を基本から考察する。	2	2	4
		製図	演習	製図は、立体物をつくる仕事において設計者の意向を伝える事ができる重要な「言語」である。製図の基本を理解し、ものづくりのコミュニケーションを円滑にする事を目的とし、これから制作しようとする立体作品のアイデアを図面化できる事、逆に描かれた図面を読み取り頭の中で立体に構築できる能力を身につける事を目標とする。		2	2
		立体基礎	実習	立体基礎1はレリーフに取り組む。具体的なイメージを粘土で制作、そこから石膏に型取りし、仕上げていく。立体基礎2は抽象的な形を立体に表現する。抽象的な言葉や物事をどのように解釈するか、手を動かしながら考えていく。	4	2	6
		ビジュアルデザイン 基礎実習Ⅰ	実習	既存商品のブランディングやデザイン計画を調査・分析し、オリジナルブランドの企画立案を行い、視覚伝達によるデザインの基礎を学ぶ。	2	2	4
		金工基礎実習	実習	金属加工の2つの主作業、素材を「切る」「接合する」について道具・工具の使い方をマスターする。	2	2	4
		金工実習Ⅰ	実習	鋳物原型を作り、作った鋳型に溶解した金属を鋳込み、形を作る「鋳金技法」を習得する。	2	2	4
		陶芸基礎実習	実習	イメージを形にするためスケッチの描写力を養い、立体の表現力を身につけていく。	2	2	4
		繊維基礎実習	実習	布や繊維の理解を深めるために、既製の布や繊維の収集からスタート。また、編む・織る・縫うを通してテキスタイル・アートの基礎を学習する。	2	2	4
		工芸演習	演習	工芸における基礎として、専門にとらわれることなく素材(布・糸・金属)に触れ、実体験を通して制作の概念を考える。		2	2
		版画表現研究	演習	版画の仕組みや特色、またフロタージュ・モノタイプなど版の多様性を学び、版画への関心を深める。		2	2
		ガラス工芸基礎実習	実習	「キルンワーク」と「ホットワーク」技法の基礎を学ぶ。ガラス工芸に必要な基本的な技術を習得し、ガラスの特性の理解を深めていく。	2	2	4

美術学科

配当 年次	必須 区分	科目名	授業 形態	概要	単位数		
					通信	面接	計
2 年次	必須	絵画概論	講義	人間はなぜ絵を描くのか?を知るため、古代壁画から始まり、セザンヌや雪舟など古今東西の名画を鑑賞。絵画表現で何を伝えるかを考える。	2		2
		美術特論	講義	絵画中心に語られがちなルネサンス美術を、遠近法の発祥とも言われる彫刻から分析。美術作品の多様な鑑賞法を学習していく。	4		4
	選択 必須	人物画（洋画）	実習	人物デッサン、クロッキー。人体という我々にとって一番身近な造形を観察し理解することで基礎的な描写技術を身につける。また油彩により人体を表現する。同時に画用油の特性、絵具の乗せ方、筆の扱いなど、油彩の基本も習得する。	2	2	4
		人物画（日本画）	実習	人物クロッキーを元に日本画制作を行う。人体という自然の造形を観察し理解することで、基礎的な描写技術を身につける。また日本画材での人体表現を通し、水干絵具や膠の基本的な使用法を習得する。	2	2	4
		静物モノクローム表現（洋画）	実習	色調の三属性の要である『明度』をまず理解する。色彩表現の根本となる明度バランス・階調について、鉛筆など単色により表現し、学ぶ。基本を習得し、それを元にさらに高度なモノクローム表現を目指す。	2	2	4
		静物画（日本画）	実習	静物デッサンを元に日本画制作を行う。台の概念やモチーフ同士の空間の把握、立体感や質感の表現を学ぶ。また日本画材でモチーフを表現することで、実感のある彩色のための混色、重色、洗い(馴染ませ)の技法を習得する。	2	2	4
		フィールドワーク（洋画）	実習	学内だけでは学べない現在進行形の美術。美術館や画廊、街角のモニュメントなどを実際に鑑賞する。学内においてもそれについてディスカッション、実習する。後半では自然の中で任意の場所をトリミングし、その中から創作のモチベーションとなる情報を採取する。それらをもとに平面作品へ展開してゆく。		2	2
		日本画材料実践研究（日本画）	実習	絵画表現研究を更に発展させ、様々な粗さの岩絵具をよりバリエーション豊かに使用する表現と技法を学ぶ。制作を通じて作品への具体的な応用方法を習得し、アクリル系顔料との併用技法などの新しい表現にも挑戦する。後半では様々な種類の箔材料を複雑に組み合わせた魅力的な表現と技法を学ぶ。研ぎ出し箔や揉み箔など、岩絵具と組み合わせた高度な技法にも挑戦し、箔の自由度と可能性を探ります。		2	2
		版画	実習	版画の制作プロセスや特色を、テキストと実践で学び、自分の創作スタイルを考える基礎を培う。	2	2	4
	選択	金工実習Ⅱ	実習	ハードワックスを用いたリング作成を行う。地金は銀を使用してキャスト工法で制作する。	2	2	4
		陶器実習Ⅰ	実習	基礎となる手びねり成形を習得。粘土のさまざまな性質を知り、作品表現の可能性を追求する。	2	2	4
		染織実習Ⅰ	実習	染色の技法は友禅染めなどに見られる手書き技法と紅型などに見られる型技法に分類できる。この科目では型技法に注目し、種々の防染技法と型の関わりを理解し、技法の習得を目的とする。	2	2	4
		ガラス工芸実習	実習	基礎技術をさらに深め、自己作品の創作を通してガラス工芸の表現力、造形力を養う。	2	2	4
3 年次	選択 必須	静物彩色表現（洋画）	実習	静物をモチーフに色彩豊かに油彩する。色調の原理と油彩の基本を習得し、それを元により高度な彩色表現を目指す。	2	2	4
		人物風景画（日本画）	実習	人物や風景をモチーフとした日本画制作を行う。人物画では人物の存在感や自然な全体感の追求を目指す。風景画では空間の切り取り手法や画面への再現方法、奥行きや広がり表現を学ぶと共に、運筆や基調色の基本を習得する。	2	2	4
		写実絵画表現（洋画）	実習	油彩により、リアリズムを追求する。類型的な解釈にとらわれず、絵画表現という広い視野に基づいて『写実』を探究する。		2	2
		古画研究制作（日本画）	実習	日本の古典絵画を学ぶとともに、模写などの実技実習を行う。日本美への造詣を深め、古画の基本となる技術や様式を学び取り、基礎的な模写制作を行い、自身の制作への還元を探究する。		2	2

■概要については変更になる場合があります。

配当 年次	必須 区分	科目名	授業 形態	概要	単位数		
					通信	面接	計
3 年次	選 択 必 須	制作研究Ⅰ（洋画）	実習	今まで与えられてきた授業課題から離れ、個人としての『作品制作』について、出発点を探る。『作品制作』以前の様々な問題についても考え、実技を通して整理する。	2	2	4
		静物・自由制作（日本画）	実習	静物をモチーフとした日本画制作と、任意のモチーフによる自由な表現の作画を行う。静物画では岩絵具や箔を使用した幅の広い表現技法を実践する。自由制作ではモチーフの扱い方や構図への落とし込み方を学び、様々な表現の研究を経てイメージに沿った制作を試みる。	2	2	4
4 年次	選 択 必 須	制作研究Ⅱ（洋画）	実習	洋画・制作研究Ⅰの経験を生かしてコンセプトを明瞭にし、タブロー制作を試みる。	2	2	4
		自由制作（日本画）	実習	任意のモチーフによる自由な表現での制作を行う。卒業制作を見越し、取材や資料収集、下絵の練り方や構図の研究、支持体の選定など制作の準備に関する作業を学ぶ。また日本画材による表現の研究をより深め、基本の確認から新たな技法への挑戦までを包括的に行う。	2	2	4
		アートプロジェクト実習（洋画）	実習	作品を制作するにあたり、エスキースに描いたものを、どのように作品として具現化させるかについて、実践してみる。また、自作を展示する事で客観的に見る（自己批評することから、卒業制作に向けての序奏としてセルフプロデュースしてみる。		2	2
		卒業制作のためのプランニング（日本画）	実習	卒業制作の準備に相当する制作を行います。作品や発表の形態を確定し、支持体を整えて下地やマチエールに着手します。並行して小下絵や大下絵の制作も行います。後半では下地やマチエールの密度をさらに向上させるとともに、並行して大下絵の完成をめざします。		2	2
		卒業制作（洋画）	実習	今までの制作経験を生かし、自分なりのモチーフ・イメージ・制作方法での表現をめざす。		4	4
		卒業制作（日本画）	実習	今までの制作経験を生かし、自分なりのモチーフ・イメージ・制作方法での表現をめざす。		4	4
単位数 計					60	80	140

■概要については変更になる場合があります。

●履修条件 これらの科目は修得順位のある科目です。下表の修得順位の順に履修してください。（P26～P28参照）

修得順位 1	修得順位 2	修得順位 3
絵画表現研究(マテリアル研究) デッサン研究 人物画（洋画） 静物モノクローム表現（洋画） 平面基礎	▶ 静物彩色表現（洋画） 制作研究Ⅰ（洋画）	▶ 制作研究Ⅱ（洋画） アートプロジェクト実習（洋画） 卒業制作（洋画）※
絵画表現研究(マテリアル研究) デッサン研究 人物画（日本画） 静物画（日本画） 平面基礎	▶ 人物風景画（日本画） 静物・自由制作（日本画）	▶ 自由制作（日本画） 卒業制作のためのプランニング（日本画） 卒業制作（日本画）※
金工基礎実習・金工実習Ⅰ	▶ 金工実習Ⅱ	
陶芸基礎実習	▶ 陶器実習Ⅰ	
繊維基礎実習	▶ 染織実習Ⅰ	
ガラス工芸基礎実習	▶ ガラス工芸実習	

※美術学科では卒業制作を「日本画」と「洋画」のいずれかから選択し、それぞれの修得順位科目を履修していきます。